

会議録(要旨)

会議名	令和4年度当事者会 5月定例会	文 責	障がい福祉室
日 時	令和 4 年5月19日 午後1時30分～3時30分	場 所	勤労者会館 大研修室1

当事者会の運営について

1 事務局からの報告・提案

【事務局からの提案】

・現在、事務局と委員との連絡手段のためにメールアドレスを提供してもらっているが、今後は委員同士の意見交換ができるように、メールアドレスを開示することにはいかがか。

【委員からの意見】

・メールアドレスを使っていない人もいる。そのような人は電話番号を開示するのでよいかな。
・個人的なアドレスと公にしているアドレスがあるので、個人のアドレスは伏せておきたい。

【結論】

・原則、メールアドレスや電話番号(もしくは FAX 番号)は委員同士で開示とする。
・連絡先を開示したくない委員は事務局まで連絡すること。
・各委員の連絡先を載せた名簿は、紙ベースで 6 月定例会にて配布する。

2 当事者会委員の自己紹介

【会長】

・公募で 14 名の委員が集まった。皆さんの思いや、地域活動に生かしていきたい考えなどがたくさんあるのだと思う。自身の役割について一人ずつ聞かせてもらいたい。

【各委員からの意見や思い】

・障がい者の事をもっと知ってもらいたい。とくに子どもたちに障がい者の生活や困りごとを知ってほしい。また、合理的配慮やバリアフリーについて啓発をしていきたい。
・障がい者の横のつながりが全くないと感じている。どこに障がいをもった人が住んでいるのかもわからない。また、まとまって意見をするにはどうしたら良いか等を考えていきたい。
・視覚障がい者であり、ずっと針灸マッサージをしてきた。個人情報保護の観点からか、若い視覚障がい者の困りごとが全く聞こえてこない。そのような若い人たちの悩みも知りたい。
・女性が少ないから当事者会に入ろうと思った。ずっと地域生活をしてきたが、相談する場所がないと感じている。地域でつながりを作っていきたい。
・2016 年に小脳出血を起こし、中途障がい者となった。それまでは働いており、まったく障がいの事が分からなかった。これから周囲に障がい者のことを伝えていきたい。
・左半身麻痺で電動車いすを利用している。作業所への通所経路に踏切があるが、段差があり通りにくい。遮断機がおりてくる時間も短く不便である。そのような事を変えていきたい。
・娘が知的障がいと身体障がいの重複障がいである。週に 1 回作業所に通っており、他の日は家で過ごしている。親なき後のことを考えていきたい。
・子どもが知的障がいである。現在、摂津支援学校に通っているが、学校終了後に送迎をしてくれる事業所がほぼ無くて、サービスを使う事ができない。地域で分断されていると感じている。また、親同士のつなが

りが希薄なので、なんとかしたいと思っている。

- ・息子が重度心身障害者で、医療ケアが必要である。しかし、吹田市では医療的ケア対応のショートステイが無い。長年の課題として分かっていると思うので、医療との連携などをしっかりと考えてほしい。
- ・吹田市内でバリアフリーになっていない場所があったので意見を上げたが、全く改善されなかった。そのような事があり当事者会に参加したが、この場では施策のことは検討しないとわかったのであきらめている。今後何ができるか考えたい。

3 今年度の運営方法の検討・意見交換

【会長】

- ・これまで当事者会で6年程活動してきたが、なかなか意見が反映されてこなかった。
- ・昨年度は有志で「事例集」を作成した。
- ・当事者会は、直接行政に交渉するところではないが、「医療的ケアに対応できるショートステイがない」等の課題があるので、当事者の意見を集約し、解決に向けて取り組む場としたい。
- ・まずは委員が地域で暮らす中での困り事について聞かせてもらいたい。
- ・地域会議に参画していくという役割があるがどのように参画するのか。

【各委員から今後の取組への展望について】

- ・感覚過敏であり、青白い蛍光灯の場所にいと大変疲れてしまう。本当は間接照明が自分には合っているが、自分の周りだけ間接照明にしてほしいと希望したところで、それは無理なお願いであるとわかっている。また、音が混ざると相手の話していることが聞こえづらくなる。前回の会議は隣の部屋で印刷機が動いていたが、あのような音が聞こえると困る。
- ・スウェーデンでは月曜日から日曜日までの曜日のイメージカラーが決まっている。それらは国全体で統一されており、視覚支援が充実しているので自閉症の方にとって過ごしやすい。義務教育終了後、高校への引継ぎや連携もしっかりとできている。スウェーデンのように誰もが暮らしやすい社会になっていけばよいと思う。
- ・現代の障がい児の親御さんは、自身の子どもに手一杯であるように見える。親のための学習会が必要ではないか。また、支援学級在籍の児童は普通学級を併用した際にカウント対象外であり、35人学級の人数に含まれないので、担任の目が行き届いていない。親と先生とのコミュニケーションも希薄である。
- ・親なき後をどうするかという問題があるがこれは普遍的な問題であると思う。他の皆も困りごとを抱えている。コロナや高齢化などいろいろな問題があるし、自分の家の隣宅も高齢のおばあさんが一人住まいだし、上の階からは子どもの泣き声が聞こえてきて大変そうである。そう考えると皆それぞれ困っており、本質的には共通している。

【事務局】

- ・地域会議の具体的な日程はまだ決まっていない。専門部会(にも包括)の開催月は決まっている。全体会の日程は決定済み。

【決定事項】

- ・次回、引き続き、委員の困りごとについて共有し、当事者会の運営について協議する。